

# 新春座談会

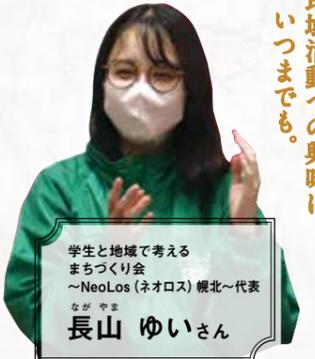
～ 区長×区民で考える北区の未来～

2022年に区制施行50周年を迎えた北区。今年は、より魅力的で住みよい北区を目指し、次の50年に向けて第一歩を踏み出す年です。今回は、新たな50年を担う世代の皆さんに、佐々木北区長と「北区の未来」について語り合っていました。

座談会の全編はHPにて公開中! ▶▶▶



地域活動への興味はいつまでも。



学生と地域で考えるまちづくり会  
～Neolos(ネオロス) 横北～代表  
ながやま  
長山 ゆいさん

活動を通して感じる地域の課題

**区長** 次の50年を見届けていただける皆さんと、北区の未来についてお話しできたらと思います。

**遠藤さん** 「しのろ紙袋ランタンまつり」の実行委員長を務めながら、篠路駅の高架化に伴う篠路のまちづくりに関する検討委員会にも参加しています。コロナ禍で、もともと地域活動を担ってくれ

**内平さん** 麻生にあるお寺の住職をしながら「おてらおやつクラブ」という団体に参加し、お供え物をひとり親の貧困家庭やそれを支援する団体にお届けする活動を行っています。その活動を通して、地域から孤立している方を多く見てきました。「地域のつながりの希薄化」が課題だと思っています。

**長山さん** 「学生と地域で考

をもっとSNSなどで発信していただきたいです。若い世代の担い手を増やすために必要だと思っています。

**長山さん** 例えば、地域のお祭りなど多くの人が足を運ぶ場で、地域活動の紹介や実際に活動されている方と住民が交流できるブースなどを作ってはどうか。これまでもまちづくりに興味はなかった方の目にも触れるのではないだろうか。

**内平さん** 地域情報誌「あさぶじかん」を制作する中で、情報の「伝え方」が大切だと感じています。ただ地域活動の様子を紹介するだけでは興味を持ってもらえません。「どうしてこの活動が始まったのか」など活動の背景や、力につながる「こんな地域の魅力が地域に与える意味も伝わる」といっています。



北区長  
ささき みかこ  
佐々木 美香子

次の50年を見据えて。

えるまちづくり会(通称・Neolos 幌北)」の代表として地域のイベントに参加しています。コロナ禍で多くの方の日常生活が大きく変化したと思います。中止となっていたイベントを再開する中で、地域活動への気持ちが離れている方が多いように感じます。地域に対する愛着や興味を持っていない方が増えているのではないのでしょうか。

**遠藤さん** 「しのろ紙袋ランタンまつり」の実行委員長を務めながら、篠路駅の高架化に伴う篠路のまちづくりに関する検討委員会にも参加しています。コロナ禍で、もともと地域活動を担ってくれ



▲オンラインでNeolos特製「幌北かるた」を子どもたちと楽しむ長山さん



▲座談会后にみんなでパシャリ

**わたしが考える50年後の北区の姿**

**内平さん** 実は小さい頃、麻生があまり好きではなくて、高校卒業後は東京の大学にいました。しかし、住職としてまた麻生に戻ってきて、地域活動に参加したり、地域の歴史や文化を学んでいく中で、どんどん麻生が好きになっていきました。北区に住む一人一人が地域のことをもっと知って、好きになって、その好きな場所を自分たち

ていた高齢者の活動が難しくなっていると思います。一方で、小学校のPTA活動を行っている方など、30〜40代で地域活動に参加されている方もちらほらいます。そういった若い世代の方が地域活動につながるきっかけが必要だと思っています。

**区長** 幅広い世代の担い手が必要である一方で、地域のつながりの希薄化が進み、地域活動がうまく継承されていないということですね。

**課題を解決するための区民・行政の役割**

**長山さん** 区民の方々が、積極的に地域の方と触れ合った



▲紙袋ランタンに灯をともす遠藤さん



▲覚王寺が発行する麻生地域情報誌「あさぶじかん」

でつくっていくと思う、そのような人が増えていくことが理想です。

**遠藤さん** 篠路で生まれてから、地域の大人たちがずっと私を見守ってくれました。今度は私が見守る立場になり、地域の方とつとコミュニケーションをとって、「この人がいるから安心できる」と思ってもらえる存在になりたいです。そして、「やっぱり篠路が大好きだ」「篠路に住んでいたい」と、自分の住んでいる地域や住民に愛着を持つ人が増えていってほしいと思います。

**長山さん** 「北区と言えばコレ!」といった活動や場所がどんどん増えていって、他の区に

大好きな篠路に育ててもらった。次は、私の番。



しのろ紙袋ランタンまつり  
実行委員長  
えんどう まなみ  
遠藤 愛美さん

り、誰もが地域活動の担い手であるという意識を持つことが必要だと思っています。

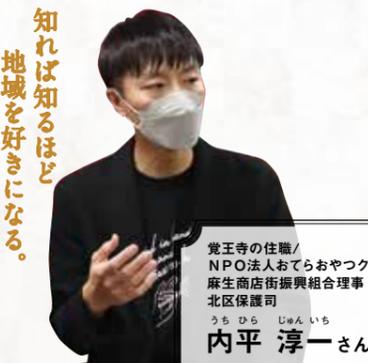
**遠藤さん** それは大切なことですね。ただ、その地域に住んでいるだけでは、区民の方が一歩踏み出す以前に、地域の活動を知ることすら難しいのが現状です。

**区長** 地域の情報に触れたり、実際に活動をしている方と関わる機会が少ないということですね。行政としてはどういったことができるでしょうか。

**遠藤さん** 高校生が授業で篠路のことを調べたときに、インターネットでは全然情報が出てこなかったそうです。行政として、地域の情報はもちろん、「こんな方が地域活動で活躍している」ということ

住む方に自慢ができるような区であってほしいと思います。遠藤さんの「地域に育ててもらったから、次は自分たちが」というお話がとてもすてきで、地域活動において大切な考え方だと思いました。私自身、自分の住む地域に対して、主体性をもって活動を続けていきたいと思えますし、今後就職して地域活動の時間が減ったとしても、地域に対する興味を持ち続けることだけは忘れないようにしたいと思います。

**区長** 貴重なお話をありがとうございます。これからも若い力で地域を支えていただき、私たちと一緒に北区をつくっていただけたらと思います。



覚王寺の住職/  
NPO法人おてらおやつクラブ  
麻生商店街振興組合理事  
北区保護司  
うちひら じゅんいち  
内平 淳一さん

知れば知るほど地域を好きになる。